

趣旨説明

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-06-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中井, 弘和 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/6704

静岡大学創立60周年記念公開シンポジウム 「それはいかに実現されたのか？」 概要

<趣旨>

10年前に実施された静岡大学開学50周年記念公開講座は、全18回（約1,000日間）に及ぶ実施期間、学外の講演者との対談あるいはシンポジウムなどを取り入れた実施形態、「20世紀とは、何だったか」「21世紀の羅針盤」というテーマの統一性など、従来の公開講座にはない社会へのアピール性に富んだものでした。

その中で多くの提言・提案・予測を行いました。このシンポジウムでは、10年を経過した現在、その後の展開・研究成果の紹介と総括を行い、再び未来への展望を探っていきます。

<内容> ※2010年1月30日（土）～12月18日（土）全6回

回	日時	タイトル	パネリスト
1	1/30 (土)	地球環境をめぐる10年から 未来へ	佐藤 博明（静岡大学元学長） 鈴木 款（静岡大学創造科学技術大学院・理学部教授） 松田 智（静岡大学工学部准教授） 水谷 洋一（静岡大学人文学部准教授）
2	4/24 (土)	今、戦争と平和について 考える	山本 義彦（静岡大学名誉教授） 高橋 洋児（静岡大学名誉教授）
3	6/26 (土)	食えること、生きること ～未来の食と農の姿～	佐藤洋一郎（総合地球環境学研究所副所長） 川口 由一（農家・自然農提唱者） 中井 弘和（静岡大学名誉教授）
4	8/28 (土)	科学とテクノロジーが辿る道	荒川 紘（静岡大学名誉教授・愛知東邦大学教授） 荒木 信幸（静岡大学名誉教授・静岡理科大学学長） 天岸 祥光（静岡大学名誉教授） 石川 勝利（静岡大学名誉教授）
5	10/30 (土)	教育・福祉・地域づくり ～よりよく生きるために～	小櫻 義明（静岡大学名誉教授） 角替 弘志（静岡大学名誉教授・常葉学園大学学長） 石井 正春（静岡大学名誉教授）
6	12/18 (土)	いま、再びいのちを 考える	松田 純（静岡大学人文学部教授） 田島 靖則（日本福音ルーテル教会牧師・雪ヶ谷ルーテル幼稚園園長） 石川 憲彦（精神科医）

- ・コーディネーター：中井弘和（静岡大学名誉教授）
- ・会場：静岡市産学交流センター（B-nest）6階プレゼンテーションルーム
- ・参加費：無料

趣旨説明

中井 弘和

師走の土曜の午後にもかかわらず、多くの皆さまにお集まりいただきましたことに、心より感謝申し上げます。今日は、静岡大学六〇周年記念シンポジウムの第六回です。最終回を祝福するように、久しぶりに真つ青な空が広がっております。開けた窓からは、風もこの部屋に入ってきております。

今日お集まりの皆さまが必ずしもこのシンポジウムに毎回出席しておられないことを前提に、このシンポジウムの趣旨をご説明したいと思います。一〇年前、二一世紀に入る前に、三年にわたって一八回のシリーズで静岡大学五〇周年記念の公開講座を行いました。佐藤元学長の時代に催したもので、総勢六〇〇七〇人の教員たちが参加しています。その場で私たちは、二一世紀という新しい時代を夢見、希望を抱きながら議論し、いろいろな提言もさせていただきました。その議論・提言が、この一〇年間でどのような展開され実現されているのか、それを検証しようというの

が今回の六〇周年記念シンポジウムの主な趣旨です。私たち教育・研究に携わる者にとって非常に重要なことは、当然のことながら、自分の言葉や行動に責任を持つということです。あのとき提言した私たち自身が、その後どのように生きてきて、今何をやっているかということも、やはり問われなければならない。そのようなことも含めてこのシンポジウムを企画しましたので、そのような点に焦点を当てながら聴いていただければと思います。

今日で第六回を迎えておりますが、第一回は地球環境、第二回は戦争と平和、第三回は食と農、第四回は科学・テクノロジー、第五回は教育・地域・福祉、そして本日は命がテーマになります。これまでのいずれのテーマにおいても命を視野に入れていることは当然ですが、今回は特に、私たちは命にどう向き合えばいいのかということが課題になるかと思っています。「二一世紀は命の時代」というのが、五〇周年記念のときの総体としての結論であり、願いでもありました。しかし、皮肉といえますか、この五〇周年のシンポジウムが始まるころから、日本人の自殺者数が二人から急に三万人になり、それから一二年連続で三万人を超えています。一説によりますと、自殺者は年間三万人ですが、自殺未遂者はその一〇倍の三〇万人、自殺願望はそ

のまた一〇倍の三〇〇万人という状況だそうです。いずれにせよ、日本は今、厳しい命の危機に直面していることは確かでしょう。

おります。

今日は、「命」にかかわって社会の第一線で活躍しておられる三人の先生方にパネリストになっていただき、命の問題についていろいろと語っていただきます。まず、日本における生命倫理の第一人者で哲学者の松田先生。NHKのテレビなどにもよく登場されて、発言しておられます。続いて田島先生は、五〇周年記念シンポジウムでは日本福音ルーテル教会小鹿教会の牧師として議論に参加していただきましたが、その後、アメリカに留学されて研究を重ねられ、学位を取って日本に戻られました。九州学院大学で教鞭を執っておられました。現在は再び牧師の現場に戻って活躍しておられます。もうお一人の石川先生は、静岡大学の保健管理センターの所長をずっと続けておられました。しかし、かつて自分が診た子どもたちが今どうなっているか、もう一度現場で接したい、あるいは精神科医として、子どもたちだけではなく弱い立場にある人々を現場で支えたいという願いをもって大学を退職され、そういうお仕事をもっと続けておられます。まさに第一線で活躍しておられる先生方にお話ししていただけることを、大変うれしく思っ